



「いくら小さい子が  
好きでも・・・」  
幼い兄弟の世話をする  
ヤングケアラーの声

---

尼崎市教育委員会事務局学校教育部こども教育支援課

スクールソーシャルワーカー 黒光 さおり

# SSWとしてヤングケアラーと出会って気づいたこと

- 自分では他の家族との違いがわからないので、苦しい状況を自覚できない。
- 若い兄弟をケアするヤングケアラーの場合、ネグレクトや親の養育能力との関係が深い。
- 困っていても相談したくない（家族を悪く思われたくない。家族が大好きで大切）。
- 自分がケアしないといけない、家族で解決しないといけないと思い込んでいる。
- 家族の幸せが第一で自分を大切にできない。
- 家族が孤立している。
- 学校で友人との関係が弱くなってしまう。孤立感が強い。
- 家庭での経験不足と進路への支えがなく、夢をもちにくく、進路をあきらめやすい。（学習する時間がとりにくいことも関係）



# 事例から考える成功点と反省点



## 成功点

- 学校にSSWが入って、本人の環境と気持ちをアセスメントし、調整ができたこと。
- 本人のがんばりを認め、苦しい気持ちを聴く支援ができたこと
- 校内で支援のネットワークをつくれたこと
- 本人の孤立は解消できたこと
- SSWを通して学校と関係機関が連携できたこと

## 反省点

- 支援プランを立てるときにヤングケアラーとしてのアセスメントができていなかった
- 家庭への働きかけができず、適切な進路選択を支援できていない
- 家族の孤立は解消できていない
- 家庭環境・ケアの環境はまだ改善できていない

# SSWとして、元ヤングケアラーとして考える、 ヤングケアラー支援策

学校現場での理解と  
スクールソーシャルワーカーの活用。

本人の気持ちやニーズに  
寄り添えて、  
代弁できる専門職または  
教員の存在。

ヤングケアラーが自らの進路  
を考えることへの支援と、  
活用できる制度の  
利用を支援。

異なる分野の連携と支援を  
コーディネートし、  
調整する専門職の存在。

ヤングケアラーを見つけたときに相談する  
窓口の確立と周知。

居場所になる地域の社会資源や、  
当事者団体の存在、創出。

ヤングケアラーと接する可能性がある人や機関が、ヤングケアラーの心情や傾向  
などへの知識・理解をもつこと。

育児や介護を、家族や母親だけの責任にしない社会、  
家族を孤立させない社会にすること。

